Google Cloud

常に使えるデータを! BigQuery でデータ パイプラインを構築

饗庭 秀一郎

Google Cloud,

Data Analytics Specialist

Table of Contents

データ パイプラインとは	01
Dataform	02

01

データパイプラインとは

データパイプライン

発生したデータをビジネスに使えるデータに継続的に処理するための仕組み



分析に使えるデータとは

発生した生データと分析に使えるデータの間にあるギャップ

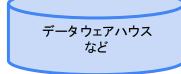
発生した生データ

オペレーショナルDB、 センサー、SaaS ツール など

ギャップ

- データの重複・欠損・ノイズ
- 分析したいデータのサイロ化
- ビジネス ロジック
- ダウンストリームに適したデータ形式
- 半構造化・非構造化データ
- 個人情報マスキング などなど

分析に使えるデータ





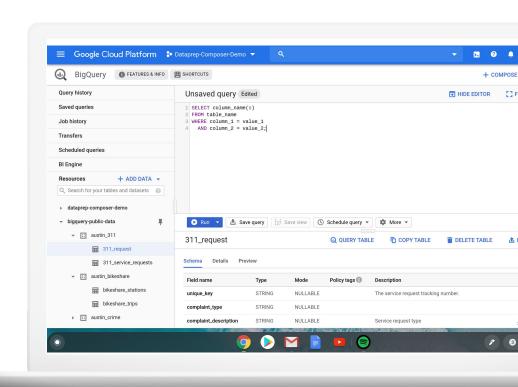
BigQuery

BigQuery

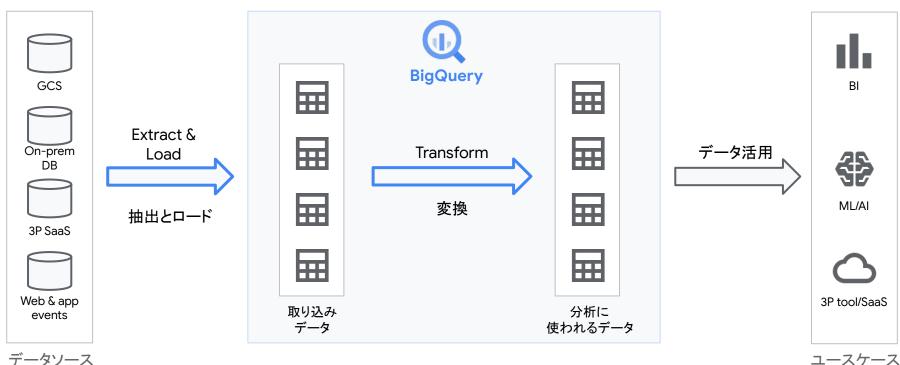
Google Cloud の エンタープライズ向け レイクハウス

ギガバイトから**エクサバイト級**のストレージや SQL クエリ処理

フルマネージドで サーバレス、高い可用性や セキュリティを担保



BigQuery を中心としたデータ パイプライン



ユースケース Google Cloud

データパイプラインに求められる要件

データ パイプイランには主に「ワークフロー」と「データ処理」の 2 つの機能性が求められる

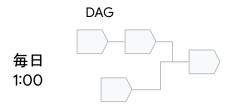
データ処理

E: Extract(抽出)、L: Load(ロード)、 T: Transform(変換) の基本的処理を大規模な データに対してもスケーラブルに実行



ワークフロー

複数の処理の実行とその依存関係・順序を 制御し、リアルタイムやバッチのような 実行タイミングも管理



BigQuery へのデータ取り込み

様々なデータの種別や取り込み要件に対応



Cloud Storage

ログデータなどの 一括取り込み



Datastream

RDBMS の変更 データ差分取り込み





Pub/Sub

ストリーミング データの リアルタイム取り込み

どうやって取り込んだデータを

分析できるデータにする?

BigQuery での変換の実装方法

BigQuery の従来機能

- クエリのスケジュール
- ビュー
- マテリアライズド・ビュー

Dataform

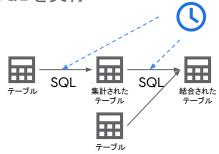
- 処理がシンプル
- 規模が小さい

- 処理が複雑
- 規模が大きい

BigQuery の機能による変換のシンプルな実装

クエリのスケジュール

指定した時間間隔で SQLを実行



- ✓ すべてのクエリをサポート
- √ 複数ステートメントクエリで
 簡単なフローを実現可能
- リアルタイムなデータ反映が困難
- 🗶 依存関係が管理できない



マテリアライズド・ビュー

元テーブルの変更を自動的 に反映して常に最新化



- ✓ リアルタイムな反映が可能
- ★ クエリのサポートが部分的(一部の 結合や関数などが非サポート)
- 多段構成が組めない

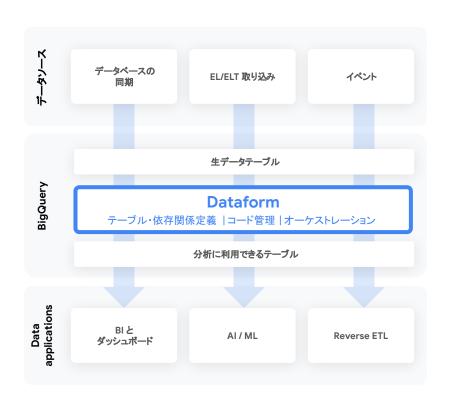
02

Dataform

Preview

Dataform

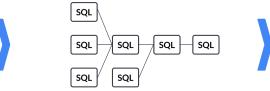
- BigQuery の SQL をデータ処理に利用した
 Transform 実装のためのフルマネージドサービス
- テーブルの定義やテーブルの依存関係を 定義型の SQLX ファイルに記述
- SQL が扱えるスキルが有ればデータアナリストなどもセルフでパイプラインを構築可能
- 実装はコードかつそれらをコードレポジトリで 管理するためソフトウェアの開発プロセスや チーム開発を導入可能



Dataform のアーキテクチャ













SQLX の開発

BigQuery に統合された UI 上でテーブル定義の SQLX ファイルを 作成し、GitHub などと 連携

SQL コンパイルとワークフロー

SQLX に記述されたテーブル間の依存関係を解析し、ワークフローとして構築

BigQuery でクエリ実行

スケジューラや外部ツールをト リガーやワークフローに沿って クエリを実行

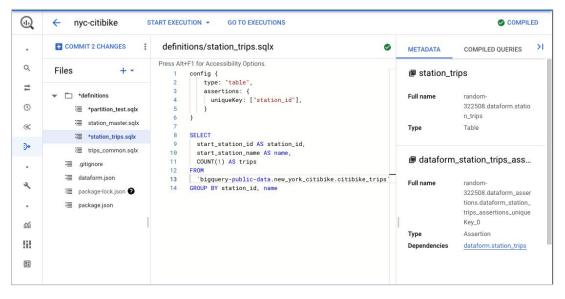
テーブル生成

テーブル・ ドキュメント・データ 品質の テスト結果などを生 成

Dataform の画面

BigQuery のコンソールに統合

Web IDE



ワークフローの実行結果

Œ.	← d	emo + CREATE	DEVELOPMENT W	ORKSPACE	- CONNECT WITH GIT
	DEVELOPMENT WORKSPACES		WORKFLOW EXECUTION LOGS		_
Q	This page	shows all the past Dataform	executions in your repository	repository	
≓	∓ Filter	Enter property name or val	ne		
3	Status	Start time	Duration	Source	Contents
~	9	Sep 30, 2022, 2:05:28 PM	6 seconds	nyc-citibike	1 action
34	0	Sep 30, 2022, 2:02:33 PM	7 seconds	nyc-citibike	1 action
) +	9	Sep 30, 2022, 1:56:32 PM	5 seconds	nyc-citibike	1 action
	9	Sep 30, 2022, 1:54:29 PM	47 seconds	nyc-citibike	1 action
	0	Sep 30, 2022, 1:42:17 PM	5 seconds	nyc-citibike	1 action
٩	0	Sep 30, 2022, 1:41:17 PM	5 seconds	nyc-citibike	1 action
	9	Sep 30, 2022, 1:39:27 PM	7 seconds	nyc-citibike	1 action
~	0	Sep 29, 2022, 5:06:51 PM	5 seconds	nyc-citibike	1 action
31111	9	Sep 29, 2022, 5:06:15 PM	5 seconds	nyc-citibike	1 action
lil	0	Sep 29, 2022, 5:03:38 PM	3 seconds	nyc-citibike	1 action
Ei	9	Sep 29, 2022, 5:02:21 PM	7 seconds	nyc-citibike	1 action
	0	Sep 29, 2022, 5:01:46 PM	5 seconds	nyc-citibike	1 action

SQLX

生成されるテーブルやビューごとに作成する SQLX ファイル

テーブル設定

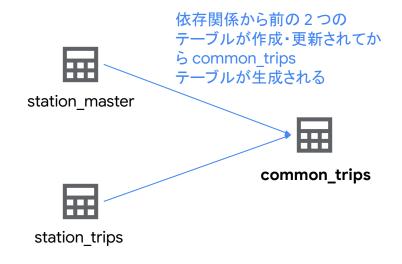
カラム説明

データ品質テスト

テーブルと依存関係の 定義

```
config {
   type: "table",
   description: "The station master table w/ the # of trips",
   columns: {
     station_id: "Unique station ID",
     name: "Station name",
   },
   assertions: {
     uniqueKey: ["station_id", "name"],
     nonNull: ["name"]
SELECT
 station_id, name,
latitude, longitude, region_id,
FROM ${ref('station_master')} stations
LEFT OUTER JOIN ${ref('station_trips')} trips
USING (station_id, name)
```

テーブルの依存関係の実装



common_trips.sqlx

```
station_id AS station_id,
name AS name,
latitude,
longitude,
region_id,
FROM ${ref('station_master')} stations
LEFT OUTER JOIN ${ref('station_trips')} trips
USING (station_id, name)
```

ref 関数

Dataform の中心となるビルトイン関数でテーブル間の依存関係を記述 \$(ref(<sqlxファイル名>))とすることで他のテーブルを参照

SQLX ドキュメント

```
config {
  type: "table",
  description: "The station master table w/ the # of trips",
  columns: {
    station_id: "Unique station ID",
    name: "Station name",
  }
)
```

GitHub などコードレポジトリーで SQLX ファイルを管理できるため、このような データアクセシビリティのための情報も ガバナンスを効かせて管理可能

BigQuery のテーブル メタデータ

Table ID	random-322508.dataform.trips_common
Table size	134.37 KB
Long-term storage size	0 B
Number of rows	1,584
Created	Sep 12, 2022, 11:05:49 PM UTC+9
Last modified	Sep 12, 2022, 11:05:49 PM UTC+9
Table expiration	NEVER
Data location	US
Default collation	*
Description	The station master table w/ the # of trips

= FI	Iter Enter property name	e or value					
	Field name	Type	Mode	Collation	Default Value	Policy Tags 🔞	Description
	station_id	INTEGER	NULLABLE				Unique station II
	name	STRING	NULLABLE				Station name
	latitude	FLOAT	NULLABLE				
	longitude	FLOAT	NULLABLE				
	region_id	INTEGER	NULLABLE				
	rental_methods	STRING	NULLABLE				

Dataform のアサーション

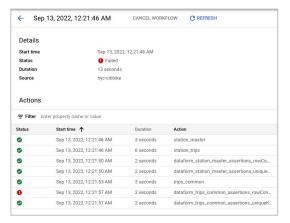
```
assertions: {
    uniqueKey: ["station_id", "name"],
    nonNull: ["region_id"],
}

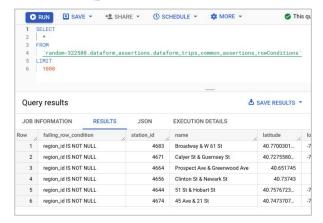
reion_idに NULL がある
レコードが存在する例
実行結果でエラーがでる
```

assertion でチェックできるものの例

- nonNull NULL 値を許容しない
- rowConditions カラムに対する任意の条件
- uniqueKey カラムの値の一意性

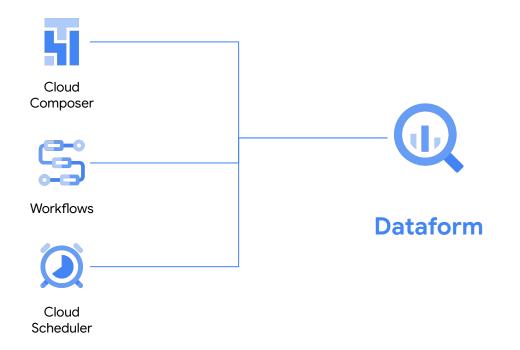
Asseartion 結果出力ビューで実際に 違反しているレコードが見れる





実行制御

現在 Dataform はスケジューリング機能など実行契機を管理する機能がないため、外部のサービスから制御する



Dataform のユースケース



データエンジニア

主要なデータパイプラインの Transform の部分に使い、 データ品質を担保



データ アナリスト / データ サイエンティスト

主要パイプラインで作られたすでに BigQuery にあるデータを個々の 分析要件にあったデータに変換、 あるいは ML の前処理の実装



Thank you.